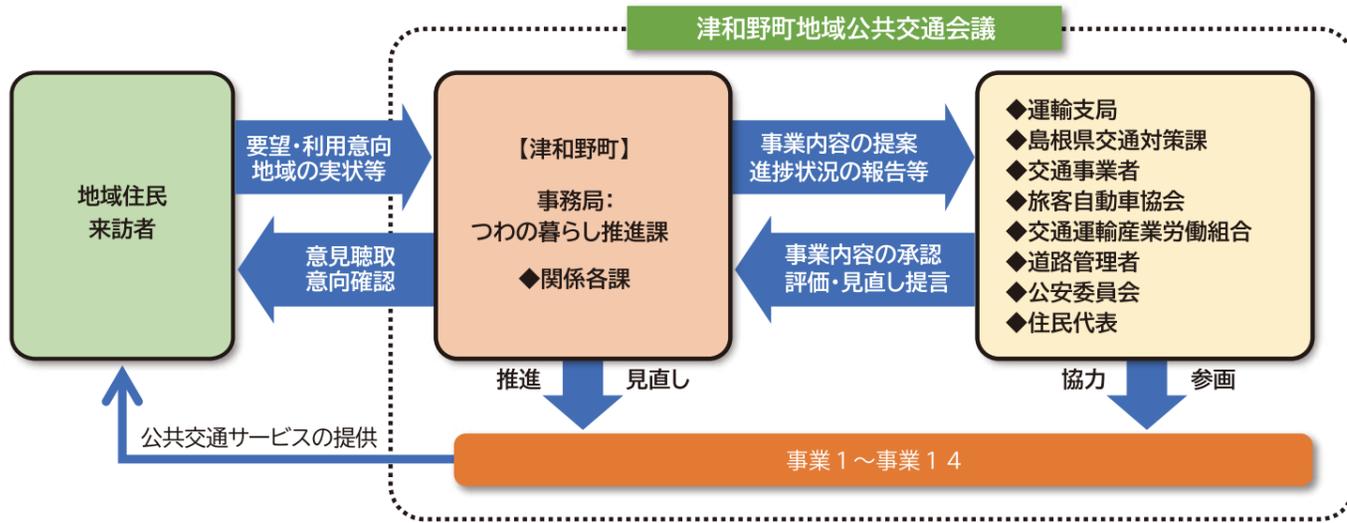


計画の目標と評価指標

目標	評価指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和9年度)
目標1 広域移動利便性の向上	JR山口線・津和野線(石見交通)と町営バスの30分以内の接続率 算定式 30分以内接続便数÷対象町営バス本数	28.6%	30.0%
目標2 地域内移動利便性の向上と運行の効率化	民間バス・町営バス等の年間利用者数 算定式 年間輸送人員と年間利用者数の総計	186,256人/年	180,000人/年
	民間バス・町営バス等の収支率 算定式 対象路線の総収入÷対象路線の総支出	25.5%	25.5%
	民間バス・町営バス等に係る町負担額(車両購入費を除く) 算定式 補助金・町負担額・委託料の総計	62,761千円/年	60,000千円/年
目標3 観光二次交通の充実	津和野町内線の実車走行キロ1km当たり輸送人員 算定式 津和野町内線の年間輸送人員÷実車走行キロ	0.41人/km	0.50人/km
目標4 公共交通利用促進と利用環境の改善、運行体制の維持	町営バス・町内タクシー事業者のドライバー数 把握方法 各事業者へのヒアリングにより把握	25人	28人

計画の推進体制



事業の評価と見直しのサイクル

- ▶ 津和野町地域公共交通会議を毎年開催し、具体的な事業計画やダイヤ調整等についての承認を得るとともに、利用促進等の取り組み状況や評価指標の数値を報告する。
- ▶ 津和野町地域公共交通会議では事業の進捗状況や評価指標の達成状況の報告を受け、計画期間の3年目に計画全体の中間評価、最終年に最終評価を行う。最終評価は次期計画に反映させる。
- ▶ 社会環境の変化や事業の進捗状況によっては、当初想定していた事業の見直し等について協議し、必要に応じて事業内容等を変更する。

津和野町地域公共交通計画
令和6年3月策定

津和野町つわの暮らし推進課
〒699-5292 島根県鹿足郡津和野町枕瀬 218-18
電話 /0856-74-0092 FAX/0856-74-0002

津和野町地域公共交通計画

概要版

令和6年3月策定 津和野町



津和野町にはJR山口線や町内外を結ぶ民間バス、町営バス、デマンドバス、乗合タクシー、一般タクシー、福祉タクシーなど多様な種類の公共交通機関がありますが、各地域では高齢化や人口減少が進行していることから、持続可能で町民の生活に即した運行サービスを検討する必要があります。

また、今後は公共交通施策だけでなく、医療、高齢者福祉、学校教育、観光、小さな拠点づくりなど、分野を超えて連携した施策によって地域課題を解決する必要があることなどを踏まえ、今後の新たな地域交通のマスタープランとなる「津和野町地域公共交通計画」を策定しました。

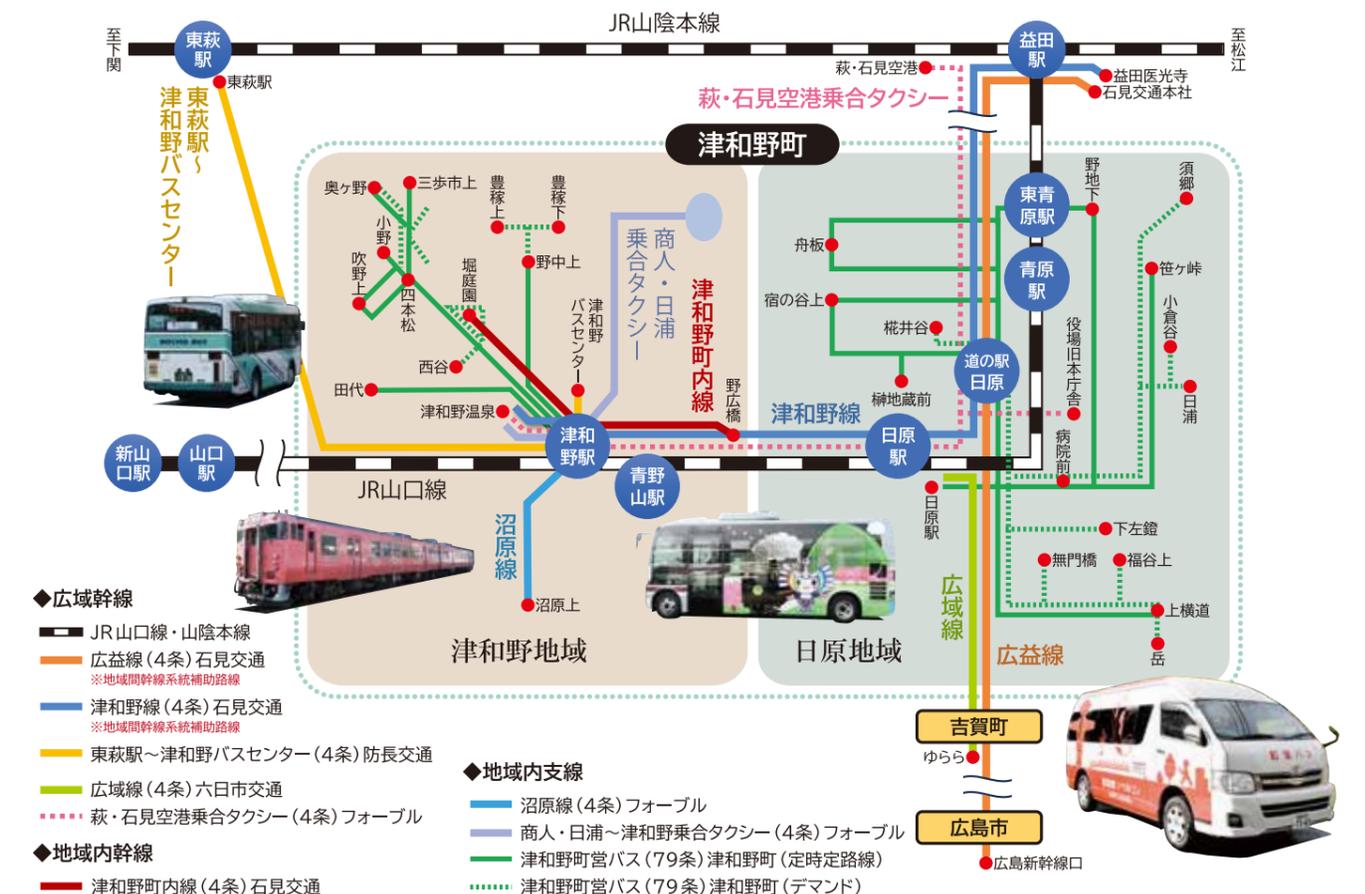
計画の区域

津和野町全域

計画の期間

2024(令和6)年度～2028(令和10)年度の5年間

津和野町の交通体系



津和野町地域公共交通計画
令和6年3月策定

津和野町つわの暮らし推進課
〒699-5292 島根県鹿足郡津和野町枕瀬 218-18
電話 /0856-74-0092 FAX/0856-74-0002

津和野町公共交通の問題点・課題

- 課題① 通院・買物利便性の向上
- 課題② 日原地域町営バスの運行ルート改善
- 課題③ 日原地域町営バスの役場周辺の起終点化
- 課題④ JR山口線及び広域バスと町営バス等の接続改善
- 課題⑤ 日原地域と津和野地域間のアクセス改善検討
- 課題⑥ 高校生の通学利便性の向上
- 課題⑦ 生活交通と観光二次交通の共存
- 課題⑧ バス停環境の整備
- 課題⑨ 公共交通利用環境の整備
- 課題⑩ 持続可能な運行体制の確立

基本方針・具体的な事業と実施スケジュール

本町の問題点・課題等を踏まえ、令和6年度から令和10年度の5年間で、以下のような14の事業に取り組みます。それぞれの事業は、各実施主体が連携しながら以下のようなスケジュールで進めてまいります。

基本方針		住む人と訪れる人にやさしい温もりのある公共交通の確立									
目標		実施主体				実施スケジュール					
事業No	事業内容	対応課題	津和野町	交通事業者	各種団体	住民	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標1 広域移動利便性の向上											
事業1	JR山口線と町営バス等との接続の改善 益田方面に午前中に出かけて昼過ぎに帰れるよう、町営バス等とJR山口線との接続を改善する。接続時間の目安は30分以内とし、JR山口線のダイヤ改正や町営バスの再編等により接続に不具合が生じた場合は、速やかにダイヤ調整を行う。 	① ④ ⑥	○	○							随時改善
事業2	広域バスと町営バス等との接続の改善 日原地域では「道の駅」において津和野線・広益線と、「日原駅」において広域線と町営バスとの接続を図る。津和野地域では、「津和野駅」において津和野線と町営バスとの接続を図る。接続時間の目安は概ね30分以内とし、接続するダイヤは、通院・買物の行き帰りの時間帯とする。 	① ④	○	○							随時改善
目標2 地域内移動利便性の向上と運行の効率化											
事業3	日原地域と津和野地域間のアクセスの充実 両地域間のアクセスの充実により、日原地域から津和野共存病院への通院や津和野地域の商業施設（キヌヤ・コーナン）の利用が可能となるほか、津和野地域から役場本庁舎隣接地の商業施設の利用が可能となる。	① ⑤	○	○							検討 実施
事業4	町営バスのダイヤ改善 午前中の通院・買物に対応した帰宅便を12時後に設定し、通院・買物利便性の向上を図る。また、津和野高校生の下校便となる町営バスについて、下校実態を把握した上で利便性向上に向けたダイヤ調整を検討する。 現状 7:00 10:00 12:00 13:00 19:00 午前中のバス運行 空白時間 午後のバス運行 再編イメージ 午前中のバス運行 運行時間帯の移動 午後のバス運行	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	○	○							改善検討 実施
事業5	日原地域町営バスの再編 日原地域の町営バスを、機能が集積する役場本庁舎周辺を中心（ハブ）とした運行ルートに再編し、路線名称を先行別に単純化する。 	① ② ③	○	○							再編検討 実施
事業6	利用状況に応じた運行形態への転換 利用者はあるが利用頻度が少ない場合は曜日運行、ほとんど利用がない場合はデマンド化する等の方針を決めて、運行形態の転換対象となった路線の沿線地域（自治会）と協議し、地元理解が得られた場合には運行形態を転換する。ただし、利用が少ない路線であっても、通学利用が見られる場合は定時定路線として平日運行を維持する。	⑩	○	○							検討 実施

目標		実施主体				実施スケジュール					
事業No	事業内容	対応課題	津和野町	交通事業者	各種団体	住民	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標2 地域内移動利便性の向上と運行の効率化											
事業7	区域運行の導入検討 日原地域の平野部において、自宅から目的地までをドアツードアで運行するデマンド型の区域運行導入を検討する。区域運行導入にあたってはタクシー事業者と運行を委託するか、タクシー事業者との競争を回避するなど、タクシー事業者の理解が得られる方法を検討する。 	①	○	○							検討 実施
事業8	堀庭園行きダイヤの効率化 津和野町内線の堀庭園行きの系統について、1~2年程度利用状況を見て、必要と認められた場合は効率化について検討を行う。具体的には入込の多い期間に絞り込んだ運行や、土曜日・日曜日の2日間に限った運行等を検討する。 	⑦	○	○							検討 実施
目標3 観光二次交通の充実											
事業9	町営バス等の観光利用の促進 津和野地域中心部の移動に使える津和野町内線、津和野線、町営バス等をひとつの時刻表にまとめ町営バス等の観光利用を促進するとともに、住民への周知も行っていく。 	⑦ ⑨	○	○	○						継続実施
事業10	グリーンスローモビリティの導入検討 全国のグリーンスローモビリティの導入事例を収集して運行状況を把握し、観光関連機関等と連携しながら観光交通、生活交通等として本町への導入が適切かどうか研究していく。 	⑦	○	○	○						導入検討
目標4 公共交通利用促進と利用環境の改善、運行体制の維持											
事業11	公共交通に係る情報発信の充実による利用促進 「城下町つわの1日乗車券」等、現在行っている取り組みを継続して行うとともに積極的に情報発信することで公共交通の利用促進を図る。また、小中高校を対象とした「バスの乗り方教室」の開催、夏休み期間中のバスを利用してお出掛けするイベント、広益線、広域線も含めた全ての公共交通を使ったお出掛け方法の提案等を積極的に行っていく。 	⑨	○	○	○	○					継続実施
事業12	町営バス車両の小型化 今までも需要に見合った車両の小型化を図ってきたが、今後も利用状況に応じて小型化を進めていく。定員が10名以下の車両にすることにより、普通免許でも運転が可能となることから、ドライバー確保がしやすくなる。 	⑩	○								検討 車両更新
事業13	バス停環境の段階的整備 町内のバス停の中には老朽化したものや表示が見えにくいものも見受けられることから、優先順位を設けて計画的に整備する。また、バス利用者の利便性向上のため、バスの発着を知らせるデジタルサイネージ（電子掲示板）等を主要結節点となる施設に整備する。 	⑧	○	○	○						調査 随時実施
事業14	公共交通のドライバー確保 本町においても町営バスのドライバーの高齢化や確保が課題となっている。町として町営バスをはじめ民間バスやタクシーのドライバー確保にも積極的に関わっていく。 	⑩	○	○	○	○					随時実施